

7月25日 コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章14節～6章2節 今日の説教から
説教題：「新しく与えられた生きる目的」

私たちには、キリスト教徒として伝道の使命があります。今日の聖書箇所であるコリントの信徒への手紙を執筆したパウロのように、イエス様の福音をより多くの人に伝える使命が私たちにもあります。様々な積極的方法で私たちはこの使命を全うすることが出来ますが、例えば「キリスト者として生きる」という私たちの姿そのものが、それを見る人々に対する確かな「伝道」になることもあります。しかし、私たちは果たしてキリスト者として伝道するに相応しい人生を歩むことが出来ているのでしょうか。そもそも、キリスト者としてふさわしく生きるとは、どのような生き方なのでしょうか。

一般的には、お金のため・正しさのため・家族のためなど、生きる目的や生き方は様々ありますが、どれも私たちがキリスト者として生きる目的としてはしっくりきません。今日の聖書箇所では、イエス様の弟子達やパウロが伝道を行い、イエス様の言葉を多くの人々に伝えるという使命を抱いていて、その伝道こそがパウロにとって自分の生きる目的だと語っています。そして、その背中を押してくれているのが「キリストの愛」でした。イエス様が十字架にかかり、人間としての人生を捧げてでも人間の罪を贖おうとしてくれた、そのイエス様の愛は、私たち人間が「自分自身のためにではなく、イエス様のために生きることが出来るように」という目的によって成し遂げられました。偶像崇拜に代表されるような自分中心の考え方ではなく、神様の望みを成し遂げることを第一に考える。そのことを神様は望んでいるのです。

では、具体的に私たちは何をすることで神様中心の人生を歩むことが出来るのでしょうか。お金でも正しさでもなく、幸せでも世間の目でもなく、私たちが追い求めるべきものは一体何なのでしょうか。私たちが追い求めるべき最も大切なことは、「信じる」という事そのものなのだと思います。神様がいること、神様が世界のすべてを作ってくださったこと、イエス様が2000年前のユダヤ地方で人々に語った言葉、イエス様が神の子であり、だからこそ十字架に向けて歩み続けたことを信じ、そして死後三日目に復活して弟子たちの前に現れたことを信じる。さらに、私たちに働きかける聖霊の働きを信じ、私たちの教会を聖霊が一つに結び合わせてくれることを信じる。この「信仰」こそが、私たちが神様中心の人生を歩むために必要不可欠な要素です。

それは、聖書の言葉を盲目的に、文字通りに暗記して信じなさい、という意味ではありません。当時の文化的な背景、歴史的な背景を学びながら、しかし最終的に、私たちはこの聖書の言葉に対して、「私たちの身に起きる出来事」として、「私たちに向けて語られた言葉」として受け止めることが求められます。聖書に書かれたすべての喜ばしい知らせが、自分の身に起きることだと実感をもって喜ぶことが出来る、それほどまでの当事者意識を御言葉に対して持つようになる事こそが、私たちが持つべき神様への信仰であり、キリスト者としての人生ではないでしょうか。

私たちが救いに、復活の喜びに導かれているのは、私たちの努力ではなく神様の選びという「恵み」のおかげです。その恵みに答えることを神様から期待されています。いえ、私たちなら答えることが出来ると、神様は信じてくれているのです。私たちの願いを聞いてくれる神様、私たちを救いへと導いてくれる神様が私たちのことを支え導いてくれている。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。